

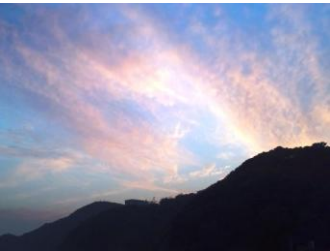
# 「家がいいね」 第117号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2014. 2. 4

「夕焼け」

「ついでに」だが  
電車は満員だった。  
そこへ  
「ついでに」だが  
若者が腰を折った  
「ついでに」だが  
ついでにいた娘が立って  
「ついでに」席をゆすめた。  
「ついでに」が立った。  
「ついでに」が立った。  
別のもうひとつの娘の前へ  
構えながら押された。  
娘は「ついでに」  
「ついでに」  
又立った  
席を



「ついでに」が立った。  
「ついでに」が立った。  
別のもうひとつの娘の前へ  
構えながら押された。  
娘は「ついでに」  
「ついでに」  
又立った  
席を  
「ついでに」が立った。  
「ついでに」が立った。  
別のもうひとつの娘の前へ  
構えながら押された。  
娘は「ついでに」  
「ついでに」  
又立った  
席を  
「ついでに」が立った。  
「ついでに」が立った。  
別のもうひとつの娘の前へ  
構えながら押された。  
娘は「ついでに」  
「ついでに」  
又立った  
席を



## 「辛い」と「辛い」、一画の違い

現代の若者も、充分やさしいと思います。そのやさしさに責められて辛い思いをしてほしくないものです。やがて団塊の世代が扉を開く多死社会の2025年問題が明らかになってきます。実はその後、どういふ社会を皆に残すかが大事なのではないのでしょうか。としよりは自分だけ幸せに死んでいくことを目標にはいけないと思います。

永六輔さんからの贈り物！

生きていくために必要

誰かに借りきつめる力

生きていくために必要

永さんは、1月19日の雪をおして伊勢に來訪され、聴衆を興奮させてくれました。写真右から遠藤泰子さん、内藤いづみ先生。永さん編成での1時間半の特別番組のようでした。私たちに贈られた課題とは、地域で生きてゆく時に「自分も借りを返してゆける」と思えるような支援の体制を作り上げる事です。地域包括ケアがそれだ！と、言えるようになると思いますけどね。

「ついでに」だが  
電車は満員だった。  
そこへ  
「ついでに」だが  
若者が腰を折った  
「ついでに」だが  
ついでにいた娘が立って  
「ついでに」席をゆすめた。  
「ついでに」が立った。  
「ついでに」が立った。  
別のもうひとつの娘の前へ  
構えながら押された。  
娘は「ついでに」  
「ついでに」  
又立った  
席を



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>